

| | |
|--------|---|
| 受付印 | |
| 収入印紙 | 円 |
| 予納郵便切手 | 円 |
| 予納収入印紙 | 円 |

家事審判申立書 事件名(性別の取扱いの変更)

(この欄に申立手数料として1件について800円分の収入印紙を貼ってください。)

印紙

(貼った印紙に押印しないでください。)
(注意) 登記手数料としての収入印紙を納付する場合は、登記手数料としての収入印紙は貼らずにそのまま提出してください。

| | | | |
|-----|--|------------------|---|
| 準口頭 | | 関連事件番号 平成 年(家)第 | 号 |
|-----|--|------------------|---|

| | | | |
|---|-----------------------------|----------------|--|
| <input type="radio"/> <input type="radio"/> 家庭裁判所 御中 平成 <input type="radio"/> 年 <input type="radio"/> 月 <input type="radio"/> 日 | 申立人 (又は法定代理人など) の記名押印 | 甲 野 一 郎 | <input style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px;" type="text"/> 印 |
|---|-----------------------------|----------------|--|

| | |
|------|--|
| 添付書類 | |
|------|--|

| | | |
|-------------|------------|---|
| 申 立 人 | 本籍 (国籍) | (戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。) 都道 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 府(県) <input type="radio"/> <input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 町 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 丁目 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 番地 |
| | 住所 | 〒 <input type="text"/> - <input type="text"/> 電話 <input type="text"/> (<input type="text"/>) <input type="text"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> 県 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 町 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 丁目 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 番 <input type="radio"/> 号 |
| | 連絡先 | 〒 - 電話 () (注:住所で確実に連絡ができるときは記入しないでください。) |
| | フリガナ氏名 | コウノ イチロウ 甲 野 一 郎 大正昭和 年 月 日生 平成 (<input type="text"/>) 歳 |
| | 職業 | 会 社 員 |
| ※ | 本籍 (国籍) | (戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。) 都道 府 県 |
| | 住所 | 〒 - 電話 () () 方) |
| | 連絡先 | 〒 - 電話 () () 方) |
| | フリガナ氏名 | 大正昭和 年 月 日生 平成 () 歳 |
| | 職業 | |

(注) 太枠の中だけ記入してください。
※の部分は、申立人、法定代理人、成年被後見人となるべき者、不在者、共同相続人、被相続人等の区別を記入してください。
別表第一 (1 / 2)

申 立 て の 趣 旨

申立人の性別の取扱いを男から女に変更するとの審判を求めます。

申 立 て の 理 由

- 1 申立人は、小学校5年生頃から、自分の性別に違和感を覚え始め、中学校入学後も、男子用トイレに入ることや他の男子生徒と一緒に着替えをすることが嫌で仕方ありませんでした。
また、自分が女性であるとの認識もその頃から強くなってきました。
- 2 平成〇年〇月から〇〇大学附属病院〇〇科へ通い始め、平成〇年〇月に性同一性障害と診断されました。それと同時に精神的サポート及びホルモン療法を開始し、平成〇年〇月及び平成〇年〇月には、性別適合手術を受けました。
- 3 現在の勤務先では、完全に女性として認識されており、名前も通称として「甲野花子」を使用しています。
- 4 申立人は、このように外見も中身も全く女性なのに戸籍などの性別欄が男となっているため社会生活上不便な思いをすることがあります。したがって、性別の取扱いを男から女に変更する審判を求めます。
- 5 なお、申立人には、子がいませんし、結婚もしていません。
(成年に達した子がいる場合)
- 5 なお、申立人は現在結婚していませんし、子（長女〇〇、昭和〇〇年〇月〇日生）がいますが、既に成年に達しています。